

2009年4月作成(新様式第1版)

貯法：気密容器に保存

下 剤

日本薬局方 ヒマシ油  
ヒマシ油「司生堂」OLEUM RICINI (Castor Oil)

日本標準商品分類番号：872356
承認番号：16100AMZ02312000
薬価収載：1986年3月
販売開始：1986年3月
再評価結果：1981年8月

【禁忌】(次の患者には投与しないこと)

1. 急性腹症が疑われる患者〔症状が悪化するおそれがある。〕
2. 痙れん性便秘の患者〔症状が悪化するおそれがある。〕
3. 重症の硬結便のある患者〔症状が悪化するおそれがある。〕
4. ヘノボジ油、メンマ等の脂溶性駆虫剤を投与中の患者〔これらの薬剤の吸収を促進して中毒を起こすおそれがある。〕
5. リン、ナフタリンなどの脂溶性物質による中毒時〔これらの物質の吸収が促進されるおそれがある。〕

[組成・性状]

本品はトウゴマの種子を圧搾して得た脂肪油である。  
本品は無色～微黄色澄明の粘性の油で、わずかに特異なおいがあり、味は初め緩和で、後にわずかにえぐい。  
本品は0℃に冷却するとき、粘性を増し徐々に混濁する。

[効能・効果]

便秘症、食中毒における腸管内容物の排除、消化管検査時又は手術前後における腸管内容物の排除。

[用法・用量]

ヒマシ油として、通常、成人は15～30mL(増量限度60mL)、小児は5～15mL、乳幼児は1～5mLを、それぞれそのまま又は水、牛乳などに浮かべて頓用する。なお、年齢、症状により適宜増減する。

[使用上の注意]

1. 重要な基本的注意  
小腸の消化吸収を妨げ全身の栄養状態に影響を及ぼすことがあるので連用を避けること。
2. 副作用(本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない)
  - 1) 消化器(頻度不明) 悪心・嘔吐、腹痛等の症状があらわれることがある。
  - 2) 過敏症(頻度不明) 過敏症状があらわれた場合には投与を中止すること。
3. 高齢者への投与  
一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意する。
4. 妊婦、授乳婦への投与
  - 1) 子宮収縮を誘発して流産の危険性があるので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には投与しないことが望ましい。
  - 2) ヒト母乳中に移行し乳児の下痢を起こすことがあるので、授乳中の婦人には投与しないことが望ましい。
5. その他の注意  
即効性であるので就寝前の服用を避けさせること。

[薬効薬理]

本品はモルモットによる実験で小腸内で胆汁共存下リパーゼの作用によって加水分解されてリシノール酸ナトリウムを生成し、結腸には影響しないで小腸及び盲腸を収縮して瀉下作用を現すが、ラット又はヒトでは消化管内で加水分解されて吸収されるので、少量の適用では効果が現れない。

[取扱い上の注意]

注 意：空气中に放置すると酸敗しやすい。  
火気注意

[包装] 500ml

[参考文献]

第14改正日本薬局方解説書、(広川書店)

[文献請求先] 司生堂製薬株式会社 医薬情報室

製造販売元  
司 生 堂 製 薬 株 式 会 社  
〒161-0033 東京都新宿区下落合 2-12-10